

ななつかの風

畜産技術センターニュース

発行事務局

●広島県立総合技術研究所
畜産技術センター技術支援部
〒727-0023
庄原市七塚町 584 番地
TEL 0824-74-0332
FAX 0824-74-1586

イクメン登場

センターでは年間 40 回ほど牛のお産があります。センター職員は約 1 週間に 1 回の割合で夜間の分娩当番があり、365 日体制でその時に備えています。今年の 10 月 27 日の早朝には双子出産がありました。育種繁殖研究部の福本豊研究員はちょうどその日が当番ということで、生まれたばかりの子牛にお母さんの初乳を与える係です。この初乳には子牛が



病気に罹らないよう病原菌から身体を守る免疫グロブリンという物質が含まれています。生まれてから半日以内に飲まないと吸収することができないという大切なものです。

この日も生まれた子牛に、福本研究員が初乳を給与しました。子牛は 2 頭の母乳をぺろりとたいらげました。

広島和牛シンポジウム開催

広島県が主催、全国農業協同組合連合会広島県本部が協賛で、広島和牛肉に関するシンポジウムが『いい肉の日』の前日、11 月 28 日（火）に広島市内で開催されました。

消費者団体、生産者、食肉流通業者、飲食店等の

幅広い参加者で行われました。

当センターからは、新出センター長がオープニングの挨拶をした後、育種繁殖研究部の山根瑞穂研究員が「広島和牛のうま味研究の今」と題して、これまでの研究の取り組みと、今後の方向性について話題提供を行いました。

パネルディスカッションでは県立広島大学村田准教授の進行により、県産和牛肉の進むべき方向の 1 つは、これまでの脂肪交雑一辺倒で

はなく、地域として特徴あるモノにしていかななくてはならないとの提言がなされ、平成 30 年に畜産技術センターの隣接地に和牛用の混合飼料センターが



開設されるので、これらを上手に利用しながら特徴ある広島県産和牛の創出の可能性についても言及されていました。第 1 回の試みでした

が、生産者、流通業者、販売者、消費者が一堂に会した良い情報交換の場でした。来年以降継続した情報交換の場として定着すればと感じました。

県立広島大学(フィールド科学)の施設訪問

12 月 7 日（木）県立広島大学生命環境学部 1 回生 7 名が授業の一環で施設見学に来られました。技術支援部の大坂隆志主任研究員によるセンターの概要や歴史について説明の後、古いサイロ等の牛舎施設やこれまでの研



究成果について説明がなされました。

旧本館（七塚原記念館）では、となりのトトロに出てくる「サツキとメイの家」に似ていませんか？のセリフに妙に皆さん納得されていました。搾乳ロボットでは、全自動で搾乳されていく様子にびっくり。お隣のキャンパスとはいえ普段は見ることでできないバックヤードまで見ていただくことができました。

研究成果発表会

12月11日（月）は年1回開催されるセンターの重要な行事の一つです。

総合技術研究所の渡邊所長の挨拶で幕を開けました。今年度は、牛のエサであるTMR（混合飼料）の特集を企画しました。

広島県はこの分野では先進的な取り組みを続けて



おり、来年は乳用牛に続いて和牛用のTMRセンターの設置・稼働目前ということで、すでに実績のある広島県酪農業協同組合の岩竹組合長と

みわTMRセンターの竹ノ内所長にこれまでの取り組みについて講演をいただきました。次に全国農業協同組合連合会広島県本部の河口さんから和牛用TMRセンター設置のねらいについてご講演いただき、その中で、「センターがすぐそばにあるので困ったときには走って相談に行く」とセンターとしてはありがたいお言葉まで頂戴いたしました。

当センターからは、TMRに適した飼料イネの収穫・調製方法について飼養技術研究部の福馬敬紘主



任研究員が、飼料イネを6mmに微細断しても、反芻時間や消化率の低下は起きないため、十分TMR原材料として用いることができること、当

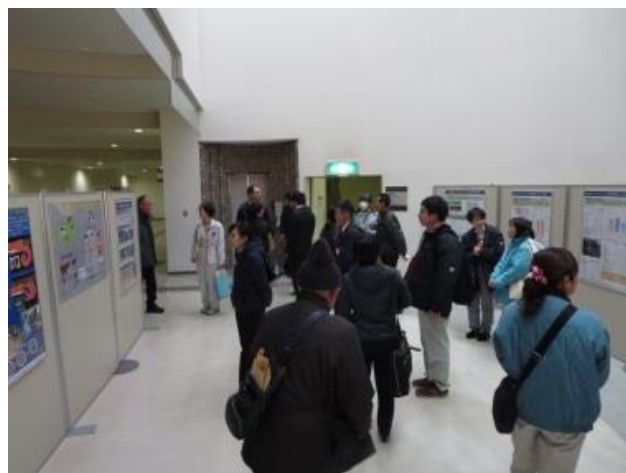
センターも共同研究に参画した乳酸菌製剤「畜草2号」を添加して発酵TMRを作製することで、カビの発生も抑制でき発酵品質の維持が可能なことを報

告しました。

また、同部の末永晋一研究員は、全国的にも先進的な小袋包装による小規模経営向け発酵TMRの開発状況について、露天での保管性能や発酵品質にも問題がないことや通年給与によっても和牛の繁殖性に与えるマイナスの影響は見られず、後継牛の順調な生産ができており、フレコンバック以外のTMR流通に目途がついたと報告がありました。



当日は雪も舞う中での開催となり参加人数が少なくなるのではないかと心配しましたが70名の参加も得て、育種繁殖研究部の佐藤伸哉研究員による第11回全国和牛能力共進会の参加報告やポスター展



示についても熱心に見ていただけたように思います。

この成果発表会については夏過ぎから技術支援部の長尾かおり主任研究員を中心に、テーマの絞り込みから、演者へのお願い、内容確認、ポスター作り、会場設営まで作り込んでいきました。今年度はテーマ的にまとまりのある発表会に仕上がりました。他県からもおいで頂き、苦労の介があったと自我自賛しております（担当が一番ホッとしております）。

編集ひとりごと

いよいよ今年も終わりに近づきました。やり残したことが山ほどある中でまた、新たな年を迎えることになりそうです。

By おがっち